

【復活のトロパリ 第2調】

しせざるいのちよ、なんぢしにくだりし死
死 生 命 爾 死 降

とき、かみのせいのひかりにてぢご
時 神 性 光 地 獄

くをころせり。しせしものをちかよ
殺 死 者 地 下

りふくかつせしめしととき、てんぐんみな
復 活 時 天 軍 皆

よびていえり、いのちをたもうしゅ
呼 曰 生 命 賜 主

ハリストスわがかみよ、こうえいはなんぢに
吾 神 光 榮 爾

き歸す。

【日本の亞使徒聖ニコライのトロパリ 第4調】

しととひとしくどうざなるもの、ちゆう
使徒等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
實 神智 役 者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
神 撲 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこ光
満 器 我 國 光

しょ うしゃ 、 あしとしゅきょうせ い ニコライ
 照 者 亞使徒主教聖
 よ 、 なんちのぼくぐんのた爲 め 、 および
 爾 羊 群 爲
 ぜんせかいのために 、 いのちをたまうせい
 全世界 爲 生 命 賜
 さんしやにいのりたまえ。
 三者 祈 給

【 日本の亜使徒聖ニコライのコンダク 第4調 】

こ うえいはちちとこ子 と せ聖 いしんにき歸
 光 荣 父 子 と 聖 神 に 役
 す 、
 せ いせ いしやあしとせ いニコライよ 、 わが
 成 聖 者 亞使徒聖
 く になんちをたびびとおよびいほうじんとうけ
 國 爾 旅 人 及 異邦 人 受
 しに 、 なんちははじめわがくににおいておの
 爾 初 我 國 に 於 己
 れをがいらいしやとしりたれども 、 ハリストスの
 外 来 者 知
 ひかりとあたたかきをながし 、 なんちのて
 光 暖 敵

きをぞくしんのことなし、かれらにか
 屬神子爲
 みのおんちょうをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて建
 恩寵與
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり
 今此教會
 たまえ、けだしわれらそのしょしはなん
 給蓋我等其諸子爾
 ちによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼我善牧者慶
 ベよ。

【復活のコンダク 第2調】

いまもいつもよよに、アミン。
 今何時
 ぜんのうのきゅうせいしゅよ、なんぢはかよりふ
 全能救世主
 くかつせしに、ぢごくはきせきを見て
 活地獄奇蹟見
 おののき、しあやはお起き、ぞうぶ
 慄死者起
 つはみてなんぢとともによろこび、アダムは
 見爾偕喜

ともにたのし
共樂
み、わがきゅうせいしゅ
我救世主
よ、せかいはつねになんぢをほめうと
世界常爾讃歌
う。

司祭) (黙誦: 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
 ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有
 ひとなんぢぞうしようよつくなんぢもろもろたまものもつこれかざ
 となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾
 り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に
 痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が
 聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる
 もの者となし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の
 仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈
 からだと體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖
 なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)
 司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世
 に、



【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆき、せいなる
聖神聖勇毅聖

ジョウセイのものよ、われらをあわれめ
 常生者我等を憐
 よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
 聖神聖毅聖
 なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
 常生者我等を憐
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
 聖神聖毅
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
 聖常生者我等を憐
 れめよ。こうえいはちちとことせいしん
 光榮父聖神聖
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。
 歸今何時世世
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
 聖常生者我等を憐
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
 聖神聖毅
 き、せいなるじょうせいのものよ、われ
 聖常生者我等を
 を
 懐
 あわれめよ。

司祭) (黙誦: 主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【 プロキメン 提 綱 主日第2調 】

司祭) つつしき 聰みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) なんぢの神にも、

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主は、我が力、我が歌なり、彼は我が救となれり、

しゅはわがちから、わがうたなり、かれはわ
主我力 我歌 彼我
がすくいとなれり。
救

誦經) 主は厳しく我を罰したれども、我を死に付さざりき、

しゅはわがちから、わがうたなり、かれはわ
主我力 我歌 彼我
がすくいとなれり。
救

誦經) 主は、我が力、我が歌なり、

かれはわがすくいとなれり。
彼我 救

【 アポストロス 使徒經 233 端 エフェス書6章10節～17節 】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パヴエルがエフェス人に達する書の讀、

司祭) つつしき 聰みて聽くべし、

誦經) 兄弟よ、主及び其權の力に頼りて堅固になれ。神の全備の武具を衣よ、爾等が惡魔の奸計を禦ぐを得ん爲なり、蓋我等の戦は血肉に於てするに非ず、乃首領に於てし、權柄に於てし、此の世の暗昧の世君に於てし、天空に在る凶惡の諸

しん おい これ よ かみ ぜんび ぶぐ と あ ひ おい ふせぎ な およそ
神に於てするなり。此に因りて神の全備の武具を取れ、惡しき日に於て禦を爲し、凡の
ことじょうじゅ たえため ゆえた しんじつなんぢらこしつか ぎ よろい
事を成就して、立つを得ん爲なり。故に立ちて、眞實を爾等の腰に束ね、義の甲を
き わへい ふくいん よび もつ あし くつ さら しん たて と これ もつ あくてき ことごと
衣、和平を福音する預備を以て足に履はき、更に信の盾を執れ、之を以て悪敵の悉
ひやけ え またすくい かぶと およ しん つるぎ すなわちかみ ことば と
くの火箭を滅すを得ん、又救の胄、及び神の剣、即神の言を取れ。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ、主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もうものの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の靈に対する戦いである。それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。すなわち、立って真理の帶を腰にしめ、正義の胸当を胸につけ、平和の福音の備えを足にはき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。また、救のかぶとをかぶり、御靈の剣、すなわち、神の言を取りなさい。

【 アリルイヤ 主目第2調 】

司祭) なんぢ 爾 に 平 安、

誦經) なんぢ 爾の神にも、

えいち
睿智、

誦經) アリルイヤ、

A musical score for soprano voice in G major. The key signature has one sharp sign. The vocal line consists of six measures. The lyrics are 'アリル イ ャ、 アリル イ ャ、' written below the notes.

A musical score for 'A Little Guy' in G clef, common time. The melody consists of quarter and eighth notes. Below the staff, lyrics are written in Japanese: 'ア リ ル イ ャ 。' The note 'リ' is a sixteenth note, and 'ル' is a eighth note.

誦經 ねが しゅ うれい ひ おい なんち き かみ な なんぢ ふせ まも
願わくは主は憂の日に於て爾に聽き、イアコフの神の名は爾を扞ぎ衛らん、

A musical score for 'A Little Guy' in G clef, common time. The melody consists of eighth and sixteenth notes. The lyrics 'ア リ ル イ ャ。' are written below the notes.

誦經) しゅ おう すぐ またわれら なんぢ よ とき われら き たま
主よ、王を救え、又我等が爾に呼ばん時、我等に聽き給え、



アリル イヤ、アリル イヤ、
ア リル イ ャ。

司祭) (黙誦: ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん
め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ おそ
の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を畏るる
おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ おも か おこな
畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行
ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ なんぢ わ たましい からだ
いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體
こうしよう われらなんぢ なんぢ むげん ちち せせいしぜん いのち ほどこ なんぢ しん
との光 照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに
こうえい けん いま いつ よよ
光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【 エヴァンゲリオン
福音 經 ルカ福音書91端 18章18~27節】

司祭) えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん
睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



なんぢのしんにも。
爾 神

司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにき歸し、こうえいはなんぢにきす。
主 光 荣 爾

司祭) つつし き か ときあるひと つ かれ こころ と い ぜん し
謹みて聽くべし、彼の時或人イイススに就き、彼を試みて、聞いて曰えり、善なる師
われえいえん いのち つ ため なに な かれ い なんぢ なん われ ぜん
よ、我永遠の生命を嗣がん爲に何を爲すべきか。イイスス彼に謂えり、爾は何ぞ我を善
とな ひとりかみ ほか ぜん もの なんぢ いましめ し いん なか ころ なか
と稱うる、獨神より外に善なる者なし。爾は誠を識れり、淫する母れ、殺す母れ、
ぬす なか もうしよう なか なんぢ ふぼ うやま かれい われいとけな みなこれ まも
竊む母れ、妄證する母れ、爾の父母を敬え。彼曰えり、我幼きより皆之を守れ

これきかれいなんぢなおひとつたことごとなんぢしょ
 り。イイスス之を聞きて、彼に謂えり、「爾に猶一の足らざる事あり、悉く爾の所
 有うひんしゃほどこしかたからてんたもかつきたわれしたがかれこれき
 有を售りて、貧者に施せ、然らば財を天に有たん、且來りて我に從え。彼之を聞
 きて、甚憂いたり、巨に富める故なり。イイスス其甚憂いたるを見て曰えり、富を
 有つ者の神の國に入るは難き哉。蓋駱駝が針の孔を穿るは、富める者が神の國に入
 るより易し。之を聞きし者曰えり、然らば誰か能く救われん。彼曰えり、人には能せざる
 ところかみよく所、神には能すなり。

(比較用 口語訳) ある役人がイエスに尋ねた、「よき師よ、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」。イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。いましめはあなたの知っているとおりである、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え』」。すると彼は言った、「それらのことはみな、小さい時から守っておられます」。イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であったからである。イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。これを聞いた人々が、「それでは、だれが救わることができるのですか」と尋ねると、イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。

しゅよ、こうえいはなんぢにき歸し、こうえい榮
 主光榮爾
 はなんぢにき歸す。
 爾

※ 聖体礼儀③(金口イオアン)へ